

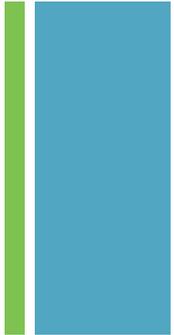


保育実践の「知」の交流と批判的検討の可能性

－実践の当事者性を持った「問い」からどのように研究論文を作成するか－

日本保育学会第69回大会 編集常任委員会企画シンポジウム
2016. 5. 田園調布学園大学 平野麻衣子

+ 主な話題



保育実践の面白さを研究に

- ・ 片付け場面での子どもの実態
- ・ 記録、分析
- ・ 分析の枠組み
- ・ 見えてきた育ちの過程

『片付け場面における子どもの育ちの過程』
保育学研究第52巻 1号

様々な研究方法の模索

- ・ 片付けをより広く捉えたい
- ①物への着目
視点・気になる子が変わる
遊びとのつながり
『園の片付けにおける物とのかかわり』保育学研究第53巻 1号
 - ②歴史（過去）との対話
『保育カリキュラムにみられる生活習慣形成プロセス』
乳幼児教育学研究第24号

+ 保育実践の面白さを研究に

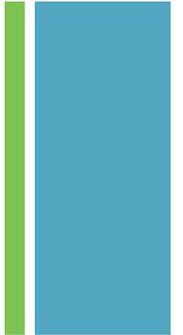
先行研究の存在

- 出発は悩みから
- 問い：「片付けで子どもはどのような経験をしているのか」
- 片付け場면을撮影
- 映像記録を見て…とにかく面白い子どもの姿がたくさん！
- ケイの育ちの過程を1年間、片付け場面から追っていく
 - 片付け場面なのに遊び・生活場面とつながって見えてくる
- 分析の視点：鯨岡（1998）「両義性」に出会う
 - 自分の（潜在的な？）問いと重なる
 - どのように自己充実と他者との共生をバランスングしていくか

ケイとの出会い



先行研究の存在



- 研究を始めた時、片付けの研究が着目されていた

- 何がどこまでわかっているのか

 - 片付け活動の構造・指導原則（声掛けなど）

 - そもそも片付けで子どもは何を経験しているのか？はわかってない

- なぜ着目されているのか

 - 保育者の意図と子どもの思いとの間での葛藤

 - 子どもにとって片付けが嫌なものという決めつけは違うような気が

 - 遊びから活動への移行場面

- 子どもにとって移行はどんなこと？場面の切り替えではないような気が

+ 片付け場面でのケイの姿

データ収集





片付けでのケイの育ちの過程

片付けイヤなケイ

保育者と遊びの世界を共にして

急に訪れた片付けが受け入れられない

遊びのイメージの中で終わりに

行きつ戻りつの
過程

わかっているけれどどうしても滑り台

友達と衝突

折々に自己充実と他者
との共生のバランス



ケイの自己形成

自分で遊び終わりを宣言

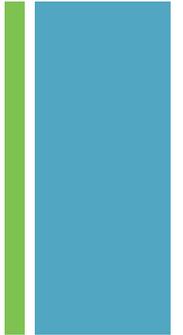
友達と次の遊びの構想を練りながら

自然と片付けするケイ



様々な研究方法の模索

「物」への着目



- 物に着目することで、同じ事例でも違うものが見えてきた
- 片付けをする子（ショウ）に対する実践者としての違和感
- 物とのかかわりの経験が積み重なっていくショウの過程
- 片付けには時間も納得も他者とのつながりも増える
- ショウにとっての片付けの意味の変化
- 遊びとのつながりが重要なんだ！（やっぱり）

園にある物

「私物」

子どもが家庭から園
に持参する物
(タオルやカバン等)

「共有物」

園内の誰もが使用できる遊具
(積み木・ブロック・滑り台等や
何度も使う材料
(砂・粘土・段ボール箱等)

子どもが
使用

使用している
子どもに一時
的に「占有権」

占有物

遊びの間、園の共有物は、
一時的に使用している子ども
の占有物となる

片付けにおける物は…

過程が重要
過程と過程の
連続性

【図1】占有物・共有物間の循環過程

【個】
占有物への見立て
を解いたり創造物
を解体したりする
などして共有物に
戻していく過程

片付けの構造
実感に基づいた
社会化

【社会】
共有物を構成員
で公平に使用し
ていくための仕
組み（ルール）

使用する者に一
時的に占有権が
ある物

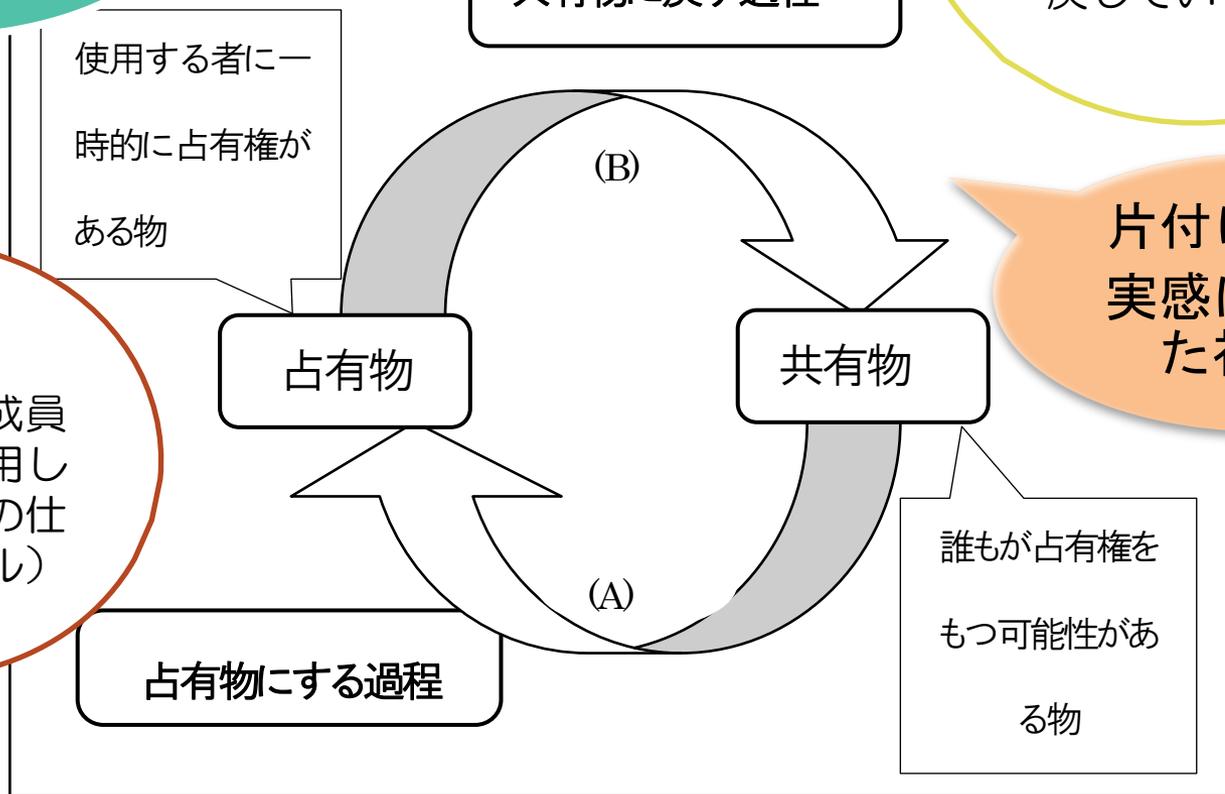
共有物に戻す過程

占有物

共有物

誰もが占有権を
もつ可能性があ
る物

占有物にする過程

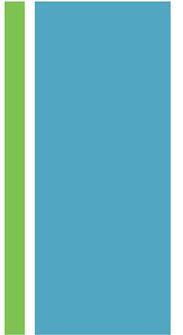




様々な研究方法の模索

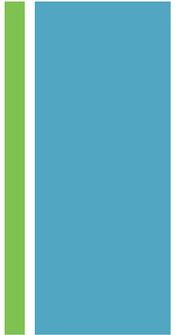
歴史（過去）との対話

- 片付け（生活習慣）は、保育の歴史の中でどのように位置づいてきたのか。
- 大正期 倉橋と及川のカリキュラム比較分析
- 過去の実践において、どのように子どもの生活習慣形成を捉え、実践に組み込もうとしていたのか、組み込んでいたのか
- そのことが現在の実践を捉える枠組み・ガイドになる
- 「社会生活」「習慣」「子ども理解」「カリキュラム編成」
- 生活習慣形成指導の危うさ
- 過去を見て、未来を展望する



+ 保育実践を論文にして伝える

面白さと難しさ



- 混沌とした実践の営みの中の点と点を結びつける
- 腑に落ちる感覚 言い表す言葉をもてる喜び
- それは拾い上げ方の問題？ 切り取るのではなくフォーカス

リンク力・往還する力を

- 拾われなかった点が捨象されてしまう怖さも
- そのためには、まだまだ学問・知の体系を知ることが課題
- 様々な研究方法で（片付けという）事象を捉える視点